

# 川柳 さいたま



芝 桜

平成30年 (2018年)

4月号 (No.701)

日川協加盟

## 巻頭言

真剣勝負といひごと

願法みつる

日本人は、真剣勝負という言葉が好きなのだろう。そして映像や演劇の場で見ると、真剣勝負ではあり得ないことを、どんな野暮でも承知している。

生身の人間による真剣での勝負とは、勝敗が死生である故に、恐怖感の極であると言われる。まさに、覚悟の有無を問われる土壇場なのである。

未熟ながら事実、重量感のある真剣で、目の前の何物かを意識して身構えたときの緊張感、刃の下に生と死を見つめる心地がある。平常心ではなくなる。この感覚は、刃の付いていない居合刀や模造刀では、決して感得できない。まして木刀や竹刀では尚のことである。

その真剣勝負の極意は、居合抜刀の呼吸である。そして、真剣勝負を制するものは心・気・力である。一撃が勝負なのだ。斬り結ぶことは稀で、勝負は一瞬だそう。

こうしてみると、川柳の課題吟とは、多くの句を会場で叩き合っている竹刀剣道の試合かも知れない。そして雑詠こそが、真剣による居合試合であるとも言える。

真剣による稽古は、仮想敵を相手の独り稽古である。森羅万象を仮想敵とする必殺技を繰り出す鍛練である。雑詠川柳もまた、仮想の読み手を相手に心を吐露する。主観でありながら客観に徹する必要がある。

## 日日是好

願法みつる

詩どころ詠み手読み手の宇宙観

金銀銅順位など無いイエスノー

相撲道人間道もマイウエイ

仏像に神や仏はいない筈

鼻毛など切るからくしゃみ止まらない



先月号巻頭言紹介の編集部員



表紙他各種映像担当の石田正則氏